

看護薬理学公開セミナー

「看護の視点が薬物治療を変える!!」

高齢者の 薬物治療の 注意点

開催日時

2022年8月27日(土) 16:00~17:00

開催

松山市総合コミュニティセンター
+ zoomウェビナー

詳しくは学術集会ホームページよりご確認ください。

<https://www.jsnr48.com/>

講師

茂木 正樹 先生

愛媛大学大学院
医学系研究科 薬理学講座 教授

座長

讚井 真理 先生

人間環境大学松山看護学部 教授

お問い合わせ先

一般社団法人日本看護研究学会 第48回学術集会事務局

e-mail : NR48@epu.ac.jp

加齢に伴って身体機能が衰えるだけでなく、それに伴う心理的な不安も重なり、高齢者では様々な症状が出現します。これを老年症候群と呼び、めまいや食欲不振、倦怠感や不眠などが含まれます。こうした症状を取り除くために、患者は薬を希望し、医療者は薬を処方します。症状が落ち着いても再発する不安から、患者さんは薬の継続を希望することが多く、増えた薬はなかなか減らせません。一方で、どんな薬にも副作用があり相互作用があります。多くの薬を飲めばそれだけ薬の悪影響が起こる確率も増加します。高齢者では薬物の副作用による入院も多く、病気を治すための薬がかえって病気を招くという矛盾も起きています。

高齢者では肝臓や腎臓などの機能低下により、代謝や排泄機能が低下し、若年者と同量の薬を服用すると、血中濃度が高くなりやすい傾向があります。また薬が増えると、きちんと服用することも難しくなり、薬の飲み忘れや過剰に飲んでしまうなど服薬間違いが増加します。例えば、薬が効かないために処方薬が増え、なぜだろうと思っていると、山のように残薬が見つかることがあります。このように薬を正しく飲んでいただくことを服薬アドヒアランスといいます。高齢者ではアドヒアランスが低下しやすい要因が多々あります。一方、必要な薬はきちんと飲んでいただくかなくてはならず、薬の優先順位についても知っておく必要があります。

このように高齢者の薬物治療においては、注意すべきことが多くあります。高齢者の訴えをよく聞くことにより、場合によっては薬を増やすのではなく、薬を減らすことで治療することができることも念頭においた高齢者の薬物治療について、本セミナーではお話ししたいと思います。